

10年後も魅力あふれる 札幌であるために ～まちづくり戦略ビジョンが完成しました

まちづくり戦略ビジョンとは？

札幌の今後10年間のまちづくりの指針となる計画です。目指すべき都市像などを示す「ビジョン編」と、市が優先・集中して行う内容を示す「戦略編」の2部で構成しています。

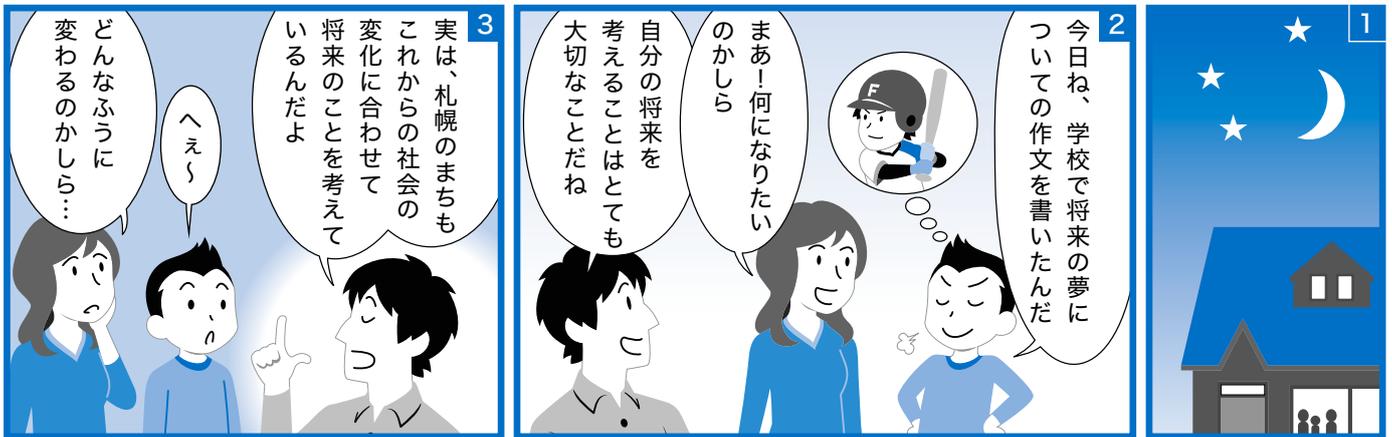


市民会議などを重ね、市民の皆さんと一緒に作り上げました

札幌のまちが、将来も魅力的なまちであり続けるために
何に取り組む必要があるのか、その指針となる計画を策定しました。
このページでは、策定の理由と計画のポイントを紹介します。

このページに関するお問い合わせは 政策企画部企画課 ☎211-2192

まちづくり戦略ビジョンを作った理由 変わっていく札幌のまち

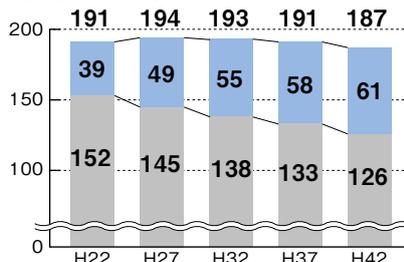


【人口がどんどん減っていく!?】

札幌の人口は、平成27年ごろをピークに減り始めると予想しています。

まちの変化 → 特に働き盛りの世代(15歳～64歳)が減り、まちの経済が弱まる
→ ことが懸念されます。

●札幌の人口の予測 単位:万人(千人以下四捨五入)



・平成27年ごろには人口の増加が止まり、徐々に減っていく
・働き盛りの世代が減り、高齢者の割合が増えていく

【一人暮らしの高齢者が増える!?】

平成37年には、8世帯に1世帯*が65歳以上の単身世帯になる見込みです。

*平成17年は13世帯に1世帯

まちの変化 → 支援や見守りが必要な人が増加する見込みです。

【エネルギー政策が変わる!?】

原発に依存しない社会の実現や二酸化炭素の排出量を抑えた暮らしが望まれています。

暮らしの変化 → 太陽光などの再生可能エネルギーの活用や、省エネを意識した生活が求められます。

こうした変化に対応するには、成長を続けてきたこれまでの時代における考え方や価値観を大きく転換していく必要があります。そうした中、まちの魅力を高め、それを未来に引き継いでいくために、今後10年間の新たなまちづくりの指針「まちづくり戦略ビジョン」を作りました。



重点的に取り組む「3つのテーマ」とそれを支える「都市空間」

暮らし・コミュニティ

地域のつながりや支え合いで安心して暮らせるまちへ



取り組みの例

- 保健師の訪問相談など、単身高齢者や障がいのある方への支援を拡充
- まちづくりセンターなどの身近な行政機関の機能を充実させ、地域の課題に応じた活動を支援

産業・活力

資源や人材を生かした力強い経済で北海道を元気に



取り組みの例

- 食や観光など、札幌・北海道の魅力と強みを生かした産業の活性化を推進
- 子育て環境の充実など、女性が活躍しやすい環境づくりを推進

低炭素社会・エネルギー転換

二酸化炭素の排出を抑え原発に依存しない社会へ



取り組みの例

- 太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及や省エネルギーの取り組みを支援
- 熱エネルギーを、複数の建物で共用できる仕組みの構築を支援

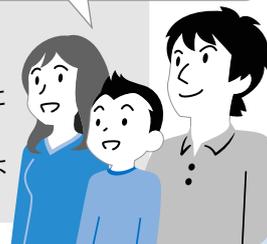
3つのテーマを支える都市空間

超高齢社会に対応したコンパクトで安心・快適なまちへ

将来も活気ある札幌であり続けるために、みんなで協力して取り組んでいこう!

取り組みの例

- 駅周辺などの人が多く往来する場所に店舗や施設などが集まるよう支援
- 誰もが安心して公共交通が利用できるよう、駅周辺などのバリアフリー化を促進



まちの将来を一緒に考えてみませんか

シンポジウムを開催

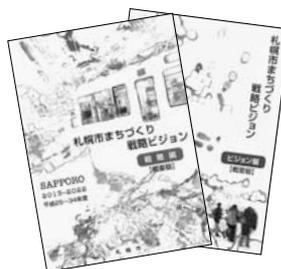
地域振興や人口成熟問題の研究などで著名な藻谷浩介氏の講演や、「歩いて暮らせるまちづくり」をテーマに市長も参加して語り合うパネルディスカッションなどを行います。

日時 12/10(火) 18時~20時30分(手話通訳・要約筆記あり)

会場 かでの2・7(中央区北2西7) 定員 500人

申し込み 電話、ファクス、Eメール。住所(郵便番号も)、氏名、年齢、電話番号を記入し、11/11(月)から市コールセンター(15)へ。先着

まちづくり戦略ビジョンの冊子を配布中



ビジョンの内容を要約した冊子「概要版」を無料で配布しています。ぜひご覧ください。

配布場所

市役所2階市政刊行物コーナー、各区役所など

■「本書」は市役所2階市政刊行物コーナーで販売中(ビジョン編130円、戦略編180円)